

## 生命尊重の価値に迫る道徳授業の創造

鈴木 由美子・松田 芳明\*

(2016年12月22日受理)

Development of the Morality Lessons focused on Life Respect Values

Yumiko SUZUKI and Yoshiaki MATSUDA

The purpose of this paper was to propose a method on morality education through the development of the morality lessons that were focused on life respect values. In this research, we made three materials that were concerned on life respect values and conducted three morality lessons. The results were follows. Firstly, the life respect values had three aspects, self, social and natural aspects. Secondary, these three aspects were influenced each other and developed through four steps. From these results, we proposed methods on morality education, called SURIBACHI methods. The generalization of these methods was our future issue.

Key words : morality lesson, sense of values, life respect values, methods on morality education, SURIBACHI methods

### はじめに

青少年の規範性の低下は、日本のみならず世界的な課題である。この課題に対し、イギリスでは品性教育 (Personal Social Education) , アメリカでは人格教育 (Character Education) , オーストラリアでは価値教育 (Values Education) が行われ、成果をあげている<sup>1</sup>。日本では、いじめ問題の対策の視点をひとつの背景として道徳の時間が教科化された。

論者らはこれまでの研究で、オーストラリアの価値教育を参考にしながら、道徳教育プログラムの開発を行ってきた<sup>2</sup>。以上から、対人関係を重視

する日本の子どもの道徳的行動を促進するためには、学校・家庭・地域において共通に価値あるものとされる価値に基づいて道徳教育を行うことが必要だということを指摘してきた。

論者らの小学生、中学生、大人を対象とした価値観に関する調査において、年齢層にかかわらず大切にされる価値を選定したところ、「生命尊重」の価値の選択率が1位であったことから<sup>3</sup>、「生命尊重」の価値は、学校・家庭・地域において共通に価値あるものとされる価値の1つであることが示唆された。「生命尊重」の価値の教育は、自他の命を大切に子どもを育成することから、現代

\* 東広島市立平岩小学校教諭

<sup>1</sup> 以下の文献・資料を参照。柴沼晶子・新井浅浩編著『現代英国の宗教教育と人格教育(PSE)』東信堂, 2001年。武藤孝典編著『人格・価値教育の新しい発展 日本・アメリカ・イギリス』学文社, 2002年。  
[http://www.curriculum.edu.au/values/values\\_homepage,8655.html](http://www.curriculum.edu.au/values/values_homepage,8655.html) (2016年12月20日取得)。

<sup>2</sup> 鈴木由美子(研究代表者), 科学研究費補助金基盤研究(C) (JP18530712)「子どもの対人関係認識の発達に

即した道徳的判断力育成プログラムの開発」, 鈴木由美子(研究代表者), 科学研究費補助金基盤研究(C) (JP22531024)「価値に基づいて判断し行動する力を育成する道徳教育プログラムの開発」。

<sup>3</sup> Suzuki, Y., et al., Research on Values as Important Components of Peace Education, World Council for Curriculum and Instruction 15th World Conference in Education, December 31, 2012, Taipei での口頭発表資料参照)

社会における喫緊の課題であるいじめの防止にも役立つと考える。

以上から、学校・家庭・地域において共通に価値あるものとされる「生命尊重」の価値を中心として、道徳教育プログラムを開発する必要があると考えた。

日本においては、近年、いじめ、自殺、通り魔的な殺害など生命が軽視された事案が多発している。社会生活を営む上で、人は多様な考えを受け入れながら、自己中心的な考えを脱却させ、社会生活のルールを自覚したり、他者とともに生きる方法を考えたりすることが大切である。

平成30年度「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の小学校での完全実施を踏まえ、「生命尊重の価値に迫るとは、どういうことなのか」、「生命尊重の価値に迫るためには、どのような手立てがあるのか」、「生命尊重の価値に迫る授業を、どのように評価すればよいのか」などを明らかにする必要がある。

そこで、本稿では、実話に基づく教材を開発し、「命を大切にする」という児童の認識についてレベル化を図り、授業前後の児童の記述内容をもとに変容を比較することを通して、生命尊重の価値に迫る道徳授業のあり方、ならびに道徳教育理論を提案する。

### 研究方法

本稿では、鈴木らが開発したいのち観の発達モデルに従って<sup>4</sup>、いのち観の空間的・時間的拡大期である9-10歳に着目し、小学校4年生を対象として実話に基づく教材開発を行い、道徳授業を実施して、児童のいのち観理解に基づいた道徳教育理論の構築をめざした。対象としたのは、A県B小学校4年生25名であった。鈴木らが開発したいのち観の発達モデルに基づいて、動植物の命、周りの人との関係における命、世代を受け継ぐ命の3つの命に関する教材を作成した。それらの教材を用いた道徳授業を行い、「命を大切にすることはどういうことか」についてワークシートに記入させ、いのち観の空間的・時間的拡大の具体的内容を明らかにした。児童がいのち観を空間的・時間的に拡大するプロセスを分析し、それを道徳教育の理論として構築するよう試みた。

### 1) 生命尊重に関わる考え方のレベル化

前述の鈴木らが開発したいのち観の発達モデルに基づいて、小学生の実態を踏まえながら、いのち観の発達モデル1（図1）を設定し、子どもの考え方の変容を見とることにした。

### 2) 実話に基づく教材開発

生命尊重の価値に関わる教材として、実話に基づいた3つの教材を選定した。小学校4年生を対

段階	特徴的な考え方
7	【いのち観の確立期。寛容や共生に着目する段階】 いのち観を寛容や共生という実践的な生き方に着目して原理的に構成する。
6	【いのち観の拡大期。継承されたいのちに着目する段階】 いのち観をいのちの連続との関係にまで拡大する。
5	【いのち観の再構成。使命の自覚。社会的秩序との関係で考える段階】 自分なりのいのち観を社会的秩序との関係を考えて再構成する。
4	【いのち観の創出。多様な生き方の容認。主観的な範囲に限定されている段階】 過去の体験や学習に基づいて、自分なりのいのち観をつくる。
3	【いのち観を空間的・時間的に拡大する段階。他者の命や将来につながる命に着目する段階】 自分だけでなく相手も大切にすること、順調でなくても未来を信じてがんばることが、命を大切にすることだと考える。
2	【自分を中心としたいのち観がつくられる段階】 自分の心や体を守ることが命を大切にすることだと考える。
1	【いのち観の根幹がつくられる段階】 動植物にも自分と同じように命があると考える。
0	【いのち観をもたない段階】 生と死の区別ができない。

図1 いのち観の発達モデル1

<sup>4</sup> <http://pesfre.hiroshima-u.ac.jp/potential02.html>  
1 (2016年12月20日取得)。

象とすることから、1 つには【いのち観の根幹】をなすものとして、動植物の命とそれをいただいて人間が生きることへの感謝に関する教材を取り上げた。また、【いのち観の空間的拡大】として、同世代の子どもの生命に関わる教材を取り上げた。【いのち観の時間的拡大】として、親子の生命のつながりに関する教材を取り上げた。

動植物の生命尊重に係る教材として、「がんばれ！くるまのうさぎ ぴよんた」を取り上げた。これは低学年用の教材であり、保育所でかわいがっているうさぎの死をもとに動植物の生命について考える教材である。この教材を通して「動植物の生命を大切にすること」について考えさせ、動植物の生命をいただいて生きている人間の生活について考えさせた。

いのち観の空間的拡大に関わる教材として、同世代の子どもが主人公である「命あるかぎり生きる」を取り上げた。これは、学習者と同じ小学4年生が、病気による差し迫る死に立ち向かい精一杯生きたことから、生きることについて考える教材である。この教材を通して、主人公のいう「精一杯生きる」ことの意味を考えさせる。その際、人は他者と関わり合いながら生きていることについて考えさせた。

いのち観の時間的拡大に関わる教材として、家族愛を含んだ「小学生のぼくは鬼のようなおかあさんになすびを売らされました」を取り上げた。これは絵本教材である。この教材は、余命わずかな母親が、わが子に力強く生きてもらうために、心の中では深く悲しみながら、わが子に鬼のように厳しく接したことが書かれたものである。この教材を通して、自分と深く関わる人の死について見つめさせ、家族愛について考えさせた。

### 3) 実践計画

実践計画は以下の通りであった。

7月13日(水)	道徳授業の実施、ワークシート記入 「がんばれ！くるまのうさぎ ぴよんた」
7月20日(水)	道徳授業の実施、ワークシート記入 「命あるかぎり生きる」
11月5日(土)	道徳授業の実施、ワークシート記入 「小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスびを売らされました」

### 4) 道徳学習指導案

【7月13日】

- 1 学年 第4学年1組 25名
- 2 日時 平成28年7月13日(金)
- 3 主題 生き物にやさしく D- (18) 生命の尊重
- 4 資料名 「がんばれ！くるまのうさぎ ぴよんた」(学校図書(一部改作))
- 5 本時のねらい 一生けん命ぴよんたの世話をする子どもたちの気持ちを考えることを通して、身近な生き物が一生けん命生きていることに気づき、命あるものを優しく大事に守り育てようとする心情を育てる。
- 6 準備物 場面絵、短冊、ワークシート等
- 7 本時の展開(概略)

主な学習活動	
導入	1 生き物を飼ってよかった体験を交流する。 ○生き物を飼ってよかったことはどんなことですか。
展開	2 資料「がんばれ！くるまのうさぎ ぴよんた」の話聞いて話し合う。 ①うさぎを飼っているときのみんなの気持ちを考える。 ○なぜ、ぴよんたがきてから、だれも保育園を休まなくなったのでしょうか。 ②うさぎがけがをした時のみんなの気持ちを考える。 ○「なおらないかもしれません」といわれたとき、みんなはどんなことを考えたでしょうか。 ③なくなったうさぎの気持ちを考える。 ○なくなったぴよんたは、世話をしてくれたみんなにどんなことを伝えたかったのでしょうか。 3 生き物の命の大切さについて考えをまとめる。 ○生き物の命を大切にすると、どんなことだと思いますか。
終末	4 命ある動物を捕食し、廃棄する人間の営みについて自分の考えをもつ。 ○牛や牛を飼っている人は、牛肉が捨てられることについてどう思っているでしょう。

【7月20日】

- 1 学年 第4学年1組 25名

- 2 日時 平成 28 年 7 月 20 日 (金)  
 3 主題 命あるものを大切に D- (18) 生命の尊重  
 4 資料名 「命あるかぎり生きる」(わたしたちの道徳 3・4 年)  
 5 本時のねらい 「命」の詩を書いた宮越由貴奈さんの思いを考えるを通して、命はかけがえないものであることを実感するとともに、命を大切にし、精一杯生きようとする態度を養う。  
 6 準備物 わたしたちの道徳、写真、ワークシート等  
 7 本時の展開 (概略)

育てる気持ちを考えることを通して、命はかけがえないものであることや家族愛を実感するとともに、命を大切にし、精一杯生きようとする態度を養う。

- 6 準備物 資料の絵本、イラスト、ワークシート等  
 7 本時の展開 (概略)

主な学習活動	
導入	1 「命を大切にすること」について考える。 ○「命を大切にすると」は、どのようなことだと思いますか。
展開	2 詩「命」を読んで話し合う。 ①詩の範読を聞き、11歳で亡くなった由貴奈さんの思いについて考えたことを発表し合う。 ○11歳で亡くなった由貴奈さんは、どんなことを思いながら亡くなったのでしょうか。 ②「命」の詩に込めた由貴奈さんの思いや願いについて考え、発表し合う。 ○「私は命がつかれたというまでせいっぱい生きよう。」という言葉には、由貴奈さんのどんな思いがこめられているのでしょうか。 3 「命を大切にすることの意味について考える。 ○由貴奈さんは、11歳という短い生涯を終えました。それは命を大切にできなかったことになるのでしょうか。「命を大切にすること」とはどういうことなのか、考えてみましょう。
終末	4 隣接する院内学級の教師からのメッセージを聞く。

主な学習活動	
導入	1 家族の死について考える。 ○もし突然家族のだれかがなくなったら、あなたはどんなことを考えますか。
展開	2 絵本の前半を聞いて話し合う。 ①ナスビを売ることができなくて、お母さんに鬼のような顔で叱られたボクの気持ちを考えて話し合う。 ○ナスビを売らなアカンと鬼のような顔で言われたボクは、どんなことを考えていたでしょう。 ②ナスビを売ることができたボクの気持ちを考える。 3 絵本の後半を聞いて話し合う。 ①ボクがナスビを売っているときにお母さんがいつも車の中で泣いていたわけを考える。 ○なぜ、お母さんはボクがナスビを売っているときに、いつも車の中で泣いていたのでしょうか。 ②お母さんの気持ちを知ったボクの気持ちを考える。 ○お母さんの気持ちを知ったボクは、なくなったお母さんにどんなことを伝えなかったのでしょうか。
終末	4 絵本作家の願いを代読する。

【11月5日】

- 1 学年 第4学年1組 25名  
 2 日時 平成 28 年 11 月 5 日 (土)  
 3 主題 余命わずかな母の願い D- (18) 生命の尊重 関連項目 C- (14) 家族愛  
 4 資料名 「小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売られました」(絵本：原田剛，筒井則之，ワイヤーオレンジ，2014年)  
 5 本時のねらい 余命わずかな母親が、たくましく生きてほしいという願いから我が子を厳しく

結果と考察

ワークシートに書かれた内容を、いのち観の発達モデル 1 に従って分析した。授業者と相談し、すべてのワークシートに記入していた児童のうちから 6 名を抽出し、その内容を取り上げた。個人が特定されないようにプライバシーに配慮して、文言等一部修正している。第 1 段階の意見に点線、第 2 段階の空間的拡大の意見に実線、第 2 段階の時間的拡大の意見に波線を引いている。

【がんばれ！くるまのうさぎ びよんた】

A 児：責任をもって一つしかない大切な命を守ること。生き物の命を大切にしないことは人の命も大切にしないことになるから、生き物の命も大切にする。

B 児：自分の家族を大切にすることや人を大切にすることといっしょだ。がんばって生きて殺され、人間に食べられることになっても、それを食べずに捨てることは悪いことだと思う。「いただきます」というのは命をいただくことなので、ちゃんというんだよと家族に伝えたいです。自分の命も一つしかないで生き物の命をむだにせず、ぼくたちを学校などに入れてくれた家族に感謝すること。

C 児：生き物がいないと自然じゃないし、生き物がいないと自分はいやだから、命を動物からもらっているので、すききらいはしないほうがいいと妹に伝えたい。

D 児：生き物が自分たちと一緒にいた時間を楽しいと思ってくれること。命を大切にすることは、自分の命を大切にすることです。自分は生き物の命を食べているから自分の命をそまつにすると生き物の命をそまつにすることだからです。自分の命を大切にして生き物も大切にしたい。ありがとうと生き物が言ってくれるようにつくすこと。

E 児：きらいだからといって殺したりしないこと。病気になるのもちゃんと命を大切にして育ててあげること。びよんたにとってはすごく楽しくすごせたので、たった5か月でも、びよんたにとっては長い5か月だったと思う。

F 児：人間が「大切にしたい」「いっしょにいたい。」という思いがあること。食べ物を残さずに感謝して食べる。「いっしょにいたい。」大切にしたい。」と思えば命を大切にすることができる。生き物と自分の命を大切にしたい。

【命あるかぎり生きる】

A 児：人生は一度しかないので、命をそまつにあつかうことは自分もきまずき、人もきまずきと思った。

B 児：命は一つしかありません。そのたった一つの命を大切に、毎日大切に、けんこうな体で命をむだにすることのない生活をしていきたいです。そして、日本、世界中の人も命を大切にして、みんな元気で、しょうがいになってもがんばって、世界みんなが命を大切にしてほしいとい

う気持ちがこの勉強で分かりました。

C 児：ぼくは、命を大切にせず、むだに命を使うのは悪いことだと思いました。命とはむだにするための命ではなく、むだにせず、勇気を出してなかよくいっしょに生きるためだと分かりました。

D 児：命を大切にすることは、「一日一日を大切にして」「せいいっばい、前向きに生きて」ということだと思

E 児：命は電池のようにいきなりなくなってしま

F 児：ゆきなさんは、病気が見つかってもくじけずにせいいっばいがんばって、命がつかれたというまですごくがんばったなと思

【小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売らされました】

A 児：ありがとう、母さんがぼくに生きる道を教

B 児：ボクは、お母さんに、ナスビを売ったお

C 児：ボクは、今、お母さんのおかげで、社長に

D 児：生きること、仕事をすること、一人でく

E 児：おにのような、お母さんが、車の中で、泣いていたのをお父さんに、聞いてからぼくは、ナスビが、好きに、なれたよ。今、お母さんの、気持ちが、分かった。ぼくは、お母さんが、おにの

いい、仕事ができているよ。その仕事では社長になれたよ、本当に、ありがとうございます。と、思っていると、おもいます。  
F児：心をおににしてくれたおかげでぼくは今いい仕事にもたどりつけたからお母さんにはほんとうにかんしゃしていると思います。あと、あのときお母さんがおにのようにおこってくれなかったら、自分一人でいきてられなかったと思います。

以上のように、「がんばれ！くるまのうさぎ ぴょんた」において、予想された動物の命の大切さを示す意見だけでなく、動物の生命を大切にすることは自分の命を大切にすることにつながるといった、いのち観の空間的拡大を示す意見が見られた。「命あるかぎり生きる」においても、他者との関わりを示す意見だけでなく、自分もくじけずに精一杯生きていくといった、いのち観の時間的拡大を示す意見が見られた。「小学生のボクは、鬼のようなお母さんにナスビを売らされました」においては、予想通り、お母さんの厳しい教えが今の自分につながっているといった、いのち観の時間的拡大を示す意見が見られた。

次に、年齢に応じたいのち観を育成するために必要な手立てについて検討した。本稿で前提としたのは、「命あるかぎり生きる」の教材を使って、小学校2年生から中学校2年生までの学年にそれぞれ授業を行い、児童生徒が「命を大切にすることはどういうことだと思いますか」という問いに答えた回答を分類して作成したいのち観のモデルであった。今回の授業実践研究から、動植物の命についての考えと人間についての考えは分けた方がよいこと、空間的拡大にも自然への拡大と人間や社会への拡大があること、時間的拡大にも自然との関係での拡大と人間や社会についての拡大があること、が示された。これらを参考にして、いのち観のモデルの再構築を行った（図2参照）。

**おわりにーすり鉢式道徳教育論の提案ー**

生命尊重を根幹として、多様な価値を学びつつ、自分の命を大切にすることから、自分の生き方へと深化する人間の生き方のありようをすり鉢のイメージに重ね合わせ、すり鉢式道徳教育論と呼ぶこととした。すり鉢の中にいろいろな材料を入れながら、すりこぎ棒ですりあわせて深い味わいのある一品を作り上げることをイメージしていただきたい。家族愛、友情、信頼など人間との関係において獲得する価値、公正、正義、寛容など社

社会	自分	自然
寛容	人類の一員として、かけがえのない自分の生きる道を見つける。	共生
<b>第4段階 いのち観の確立・展開</b>		
社会のルール	多様な生き方を容認し、自分なりの生き方を社会的秩序との関係で再構成する。	自然の法則
<b>第3段階 いのち観の創出・再構成</b>		
友人や地域社会の人々とのふれあい	自分だけでなく相手や自然も大切にして、将来につながり命に着目する。	動物、植物とのふれあい
<b>第2段階 いのち観の空間的・時間的拡大</b>		
家族や身近な人からの援助、思い	自分の心や体を守る。	食べること、健康
<b>第1段階 いのち観の根幹</b>		

図2 いのち観の発達モデル2

会との関係において獲得する価値、動物愛護、共生など自然との関係において獲得する価値を体験や学習によってすりこぎ棒ですり合わせながら、自分の器の中に道徳性をこね上げることを意味している。

器は獲得した価値に応じて大きくなる。「器が大きい」とは道徳性の懐が深いことを示す。すりこぎ棒は、その人が持っている価値獲得の手段を指す。最初は大人（親や教師など）からすり方を学ぶ。子どもはすられ方を学び、心地よさを感じながらすり方を知っていく。次第にすり方を獲得し、自分ですることができるようになる。自分ですりこぎ棒を使ってするために、大人に相談する、本を読む、などしながら多様な手段を獲得し、自分で練り合わせていくようになる。できたもののおいしいかどうかは、味見すればわかる。苦めだったり、甘かったり、おいしかったり、まずかったりする。失敗や成功の体験を積み上げて、次第

に主体化，能動化，自動化させていく。

自分の命を大切にしていないと底が抜けてしまう。体験や知識が少ないと器の凹凸が少ないので、練り合わせるができない。味気ないものになる。

大人（親や教師など）は、子どもの人生が練り合わされた味わい深いものになるよう、教諭してすりこぎ棒のすり方を教えていく。器が凹凸のあるものになるよう、失敗や成功を含め多くの体験をさせたり、主体的に学ばせ多様な知識を習得させたりする。子どもの器に応じて、すりこぎ棒も大きいものにしていき、子どもが自分の力で練り合わせることができるようにする。

すり鉢式道徳教育論に従えば、教師の役割は子どもが自分の命を大切に、自分の夢や希望を実現することを手助けすることになる。道徳授業においては、人間が生きていく上で必要とされる価値を教わるが、それらを自分の中に取り込んで、価値観を練り合わせて自分なりの人生観を作っていくのは子ども自身である。教師は、子どもが自分ですりこぎ棒を持って練り合わせることができるように、最初は手を添えて回し方を教えてやる。一緒にすりこぎ棒を回しながら、子どものすり鉢に突起が少ないと思えば、様々な体験活動を仕組み、声かけをして、心のひだを作ってやる。いい塩梅で練り合わせることができるようを手助けしてやるのである。子どもが大きくなるにつれて、自分ですりこぎ棒を回せるようにしてやるのがよい。

子どものすり鉢は、年齢や体験に応じて大きくなっていく。すり鉢が大きくなるにつれて、すり鉢の底を厚くしなければならない。そのためには、子どもそれぞれが持って生まれたその子らしさや夢や希望を鼓舞し、活気づけ、生きることの喜びを感じさせる必要がある。

自分の命を大切にすることを中心として、様々

な価値を練り合わせ、自分なりの生き方を確立することをめざした、すり鉢式道徳教育論の探究は、今始まったばかりである。いのち観をはぐくむ教材を開発し、方法論を一般化していくことを今後の課題としたい。

#### 引用参考文献・資料

- 文部科学省 小学校学習指導要領（平成 27 年 3 月）  
文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 27 年 7 月）  
武藤孝典編著『人格・価値教育の新しい発展 日本・アメリカ・イギリス』学文社 2002 年  
柴沼晶子・新井浅浩編著『現代英国の宗教教育と人格教育(PSE)』東信堂 2001 年  
鈴木由美子（研究代表者）科学研究費補助金基盤研究（C）（JP18530712）「子どもの対人関係認識の発達に即した道徳的判断力育成プログラムの開発」  
鈴木由美子（研究代表者）科学研究費補助金基盤研究（C）（JP22531024）「価値に基づいて判断し行動する力を育成する道徳教育プログラムの開発」  
Suzuki, Y., et al., Research on Values as Important Components of Peace Education, World Council for Curriculum and Instruction 15th World Conference in Education, December 31, 2012, Taipei での口頭発表資料  
[http://www.curriculum.edu.au/values/values\\_homepage,8655.html](http://www.curriculum.edu.au/values/values_homepage,8655.html)（2016 年 12 月 20 日取得）  
<http://pesfre.hiroshima-u.ac.jp/potential02.html>（2016 年 12 月 20 日取得）

\*本研究は、JSPS 科研費 JP16K04766 の助成を受けたものです。